

# 2020年度 事業報告

公益社団法人宜野湾青年会議所  
第43代理事長 桃原 翔一

## 共創 自己を高め、確かな発信力から生まれるまちづくり

### はじめに

パートナーシップ、自己修練、行動力を伴った発信力の三つを柱として、一年間多くの関係者、関係団体と協力し、様々な困難も乗り越え、運動を力強く発信し事業を展開してまいりました。2020年度公益社団法人宜野湾青年会議所の責任者として、ここに事業報告を記します。

### 1.成長を続ける組織であるために(組織改革)

設立からこれまで、この組織は常に変化・成長して活動してきました。これからも例外ではなく常に組織のアップデートを繰り返し運営にあたらなければいけません。2020年度、会員減少の続いている当会議所では合計2つの委員会からなる組織を構築、これまでよりもコンパクトにし、ひとつの委員会人数を増員することでその活動を活性化させることができました。また、予算を投じ新たなコミュニケーションツールラインワークスを導入しスケジュールカレンダー、資料の共有、ライン既読をしてる方の特定、その方へのアプローチを行うことで組織運営が円滑になり、宜野湾青年会議所の運動をより効果的に発信できました。

### 2.魅力ある組織づくり(体内・対外への組織の魅力発信、年間12名の拡大)

会員拡大において魅力のある組織づくりは欠かせないものであり宜野湾青年会議所としてそれを常に追求しなければならない。2020年度、当青年会議所では2月資産形成セミナー、3月不動産投資セミナー、6月ラインワークス勉強会、8月BtoC向けラインボット活用術、合計4回の例会を通して、会員が体内・対外に対して会員それぞれの得意分野を生かしたセミナーを開催しました。また、9月にはあやかりの杜をお借りして会員拡大に向けたパーベキュー大会、10月にはボーリング大会、11月にはVF(ヴィジュアルフューチャー)セミナーを開催し、年間で9名の新入会員を迎えることができました。会員拡大は青年会議所運動の基本でありどのような状況下においても継続し続けなければいけません。現在の社旗情勢のなか、2020年度期首会員数21名に対し30名まで拡大できたことは我々、宜野湾青年会議所会員にとって自信につながり2021年度さらに拡大は加速し組織として飛躍する

ことと確信しております。

### 3.持続可能なまちづくり(活動エリアへのSDGsの推進・実践)

2020年、当会議所では持続可能なまちづくりの一環として2020年12月に行われる北中城村町選挙に伴う公開討論会を地元団体の北中城観光協会、北中城村在住の大学生比嘉柊太郎様と協力しイオンモール沖縄ライカム1階にあるスタジオキタナカにて行いました。ひとが集まるのが難しいこの時代に置いてもちまちづくりの第一歩として村民の方に選挙へ参加していただくためラジオ放送、You Tubeでの配信を行い、合計再生回数は2639回と多くの村民の方へ各候補者の政策を届けることができ持続可能なまちづくりを実現しました。

### 4.未来を見据えた地域の社会課題解決と経済発展(ソサエティ5.0の推進・提唱)

我々の住み暮らすこの地域によりよい変化を起こすには、これからの地域課題の解決に必要な不可欠なIT技術を用いて事業を構築する必要があります。2020年度新型コロナウイルス感染症の脅威にさらされ、さらにその必要性が高まった各分野においてのIT技術の活用法を当会議所では、ネクストイノベーション委員会を筆頭に企画立案していただきました。新型コロナウイルス感染症の影響を受け便数の減少した各病院の送迎バスの代替え案として要介護者と病院を繋げるプラットフォーム「ユタクシHigh yaaa」事業を展開しました。参加事業所数11社、運営協力事業者数1社、システム登録者数46名と結果を残し、本システムからの利用は出なかったものの事業後アンケートでは今後も続けてほしいとの回答が多くみられ本事業の必要性を感じました。また、アンケートのなかには実施期間の短さを指摘する意見もあり事業実施責任者として次につなげるための検証結果となりました。

### むすびに

様々な場面で制限を余儀なくされ、急速な変化が求められる一年となり思い描いていた事業開催は出来なかったかもしれません。しかし、一日一日と変わる変化に対応していただいた会員の皆様には思い描いていた以上の成長を感じることができました。これからも、我々は宜野湾市、中城村、北中城村のより良いまちづくりに貢献して参る所存でございます。2020年宜野湾青年会議所の運動にご理解、ご協力いただきました関係諸団体の皆様に厚く御礼申し上げ、2020年度事業報告とさせていただきます。